

# ChatGPTが

# 教育界に あたえる衝撃

ChatGPT…*チャットまなメデイ*

アで取りあげられているので、ご覧になった方もいらっしやるだろう。なぜこれほど取りあげられ、話題になっているのか。今までのサービスとは異次元の「なめらかな会話」と「内容の精度」。その衝撃に、Googleが緊急事態宣言を出したという報道も。今回はこのChatGPTが教育界にどのような影響があるのか見ていきたい。

## ■ChatGPTとは

ChatGPT（チャット ジーピーティー）は、OpenAIというアメリカの人工知能研究所が昨年11月に発表したインターネット上のチャットボット（自動会話プログラム）。現在、メールアドレスなどを登録すれば無料で利用できる。マスクミでの取りあげられ方は、「人間かAIか」見分けつかなくなる」ChatGPT教育現場に波紋」（朝日新聞）  
「からは宿題… ChatGPTがもう暗記重視の学校教育」（日本経

済新聞）

と、教育現場利用による混乱を警戒する記事が見られる一方、

「間違いだらけのChatGPT 真の知能にはなお遠く」（日本経済新聞）  
・「ChatGPTは日本の司法試験に合格できるか」弁護士ドットコムニュース）

と、その内容や精度に懐疑的な報道、あえて戦い(?)を挑んだというような報道も。

## ■どんなやり取りになるのか

では、実際にChatGPTとのやり取りを、と見ていたところ。やり取りをそのままコピー&ペーストしている。

【問】 ChatGPTのような優秀なAIを教育現場で利用するときに、

注意すべき点はなんでしょうか。特に指導者視点での注意点を教えてください。

【答】 AIの導入によって教育現場にも大きな変化がもたらされるのが期待されますが、指導者と

してAIを導入する際には以下のような注意点があります。

1. AIが補助的な役割であることを認識する AIは、教育現場での補助的な役割を担うことが望ましいです。AIを使うことによって、膨大なデータを処理することができたり、学生の進捗を把握することができたりするため、教育現場の業務を効率化することができます。しかし、AIがすべてのことを代替するわけではないため、教員がもつべき専門性や人間性は失われるべきではありません。このあと、さらに3つの観点から注意すべき内容が整理されて回答された。

まるで向こうで誰かがキーボードを打っているかのような拳動と流麗な日本語。キーワード入力による「検索」とは異次元の感覚。学校での利用はともかく、すぐに家庭で利用されるようになるだろう。報道でも「宿題」「レポート」がChatGPT頼みになるのではという危惧が多く取り上げられては、教育の本質が揺らぐこともありそうだ。質問の仕方を工夫すれば、プログラミング作成やエクセルのマクロを組んでもくれる（左図参照）。万能にも見えるが、まだ間違いも多いので、むしろ高い情報リテラシーが必要だ。また、質問の仕方とそのあとのやり取りが極めて重要。どのような質問をするかという「プロンプト・エンジニアリング」の領域が俄然注目されるだろう。まずは私たちが使い倒して利点、課題を見いだすことがよい付き合い方、利用の仕方をするために大事ではないか。



エクセルのマクロ作成指示に回答した様子